

平成25年度第2回成田市環境審議会会議録

1 日 時 平成26年1月31日（金）午前10時00分～午前11時00分

2 場 所 成田市役所3階第二応接室

3 出席者

（委員）

本橋敬之助会長、森山茂副会長、藤井智子委員、片岡孝治委員、富井柁夫委員、岩舘司委員、長谷川優子委員、印宮昭夫委員、長尾ミチ子委員、鏝分正貴委員、設楽憲一委員、長谷川吉昭委員、安藤泰亘委員、清田秀夫委員、佐藤勝幸委員、ボウマン京子委員

（成田市）

小泉市長

環 境 部 藤崎部長

（事務局）

環境計画課 石井課長、篠塚課長補佐、渡部係長、土屋主査、松浪主任主事

（オブザーバー）

株式会社 知識経営研究所 田中コンサルタント

4 議第

（1）環境基本計画（案）について（諮問）

（2）パブリックコメントについて（報告）

（3）答申について

（4）その他

5 議事

（1）環境基本計画（案）について（諮問）

小泉市長から、環境基本計画（案）について、環境審議会で審議するよう諮問があり、諮問書を本橋会長に手渡した。

（2）パブリックコメントについて（報告）

事務局から、パブリックコメントの実施概要及び結果について報告があった。また、前回第1回審議会時に配布した「成田市環境基本計画見直し（素案）」から今回の「成田市環境基本計画（案）」にいたるまでの経過及び変更点について説明を行った。

（3）答申について

本橋会長から、「成田市環境基本計画（案）」については、前回第1回の審議会では基本的には了承していることから、答申については「市の案に同意する」ということと、「付帯事項つけない」という事を今回の確認事項としたいことが述べられた。

ここまですら確認したうえで、「成田市環境基本計画（案）」についての質問を受けた。

出された質問は次のとおり。（○質問等、→質問に対する回答）

- 20 ページについて。印旛沼は依然として汚濁の状況は改善されていない。これは改善不可能な要因があるという事か。
 - 平成22年まで COD の値が8台で横ばいであったが、平成23年に急に11台になった。原因について、流域住民、生活雑排水の流出と考えていたが、降雨量であった。要するに降雨量が多ければ汚濁物質が流出しやすくなるが、降雨量が少ない時には、水が印旛沼に長く留まり、アオコが非常に発生する。それが印旛沼の水質の指標である COD に大きく関わってくる。

印旛沼の水質を改善するためには、流域市民の努力はもとより、印旛沼に流れる水量を増やす。そのためには、雨水を地下に浸透させて、常時、印旛沼に流入させるという方法しかない。

- 46 ページの3の「成田市環境保全率先実行計画（区域施策編）」、策定の趣旨をつけたということで、説明を求める。
 - 平成13年から、成田市は一事業者として、市役所から排出される温室効果ガスの削減を目指し、「成田市環境保全率先実行計画」というものを策定し、昨年度3次の改定を行い「成田市役所エコオフィスアクション」として引き続き進めている。それに加えて今回、三者連携の下、市域全体の温室効果ガス削減を目指すという趣旨で、区域施策編という事で位置づけさせてもらった。

温対法の中で市役所自体が CO₂削減の計画を「事務事業編」として策定する事が義務付けられている。中核市等では市域全体の CO₂削減計画である「区域施策編」の策定も義務付けになっている。成田市の場合は、これまで市役所だけの取組について述べてきたが、今回の見直しの中で、環境基本計画の大本である市民と事業者と協働をより高めていくために、「区域施策編」についても定めた。そのような趣旨の記載がなかったが、解りやすくするため今回記載をした。

- 24 ページの「7. 環境と関連を持つ分野」(2) の環境教育・環境学習の課題として、「環境に関心のある市民・事業者だけでなく、全ての主体が環境活動への理解を深め、実践を促進できるような働きかけが求められています。」ということだが、環境学習の内容を見ると「なりた環境ネットワーク」が主体になって、印旛沼の観察会や講演会を行っているが、今後、印旛沼を主体に環境活動をしていくのか。それとも、河川や里山を含めた活動になっていくのか。
 - 成田市にとって印旛沼は、大きな存在であり、活動の中心になってくる。また、市としては、これまで定期的に動植物調査を行っており、来年度、再来年度で調査を行う予定。その中で、この10年でどのような生物の動きがあったかということをとらえている。併せて湧水の調査なども行い、地域ごとの特徴などの評価をしていきたい。また、この動植物調査を通して新たな活動が生まれれば、などとも思っている。

- 27ページの地球温暖化、課題の欄に「エネルギー利用の効率化や再生可能エネルギーの導入促進、CO₂の排出抑制に積極的に取り組む必要がある」という一文があるが再生可能エネルギーとはどういうものを対象にしているのか。
 - 現状では、太陽光発電システム導入を積極的に考えている。一般住宅用の補助は、平成21年度から開始し、上限12万円としている。平成24年度末までで855件の補助をし、今後も継続したい。また市が施設の改築や新設をする時には太陽光発電システム導入を積極的に検討している。

また、平成25年10月から、一般住宅用の補助の対象として、燃料電池コージェネレーションシステム、定置用リチウムイオン蓄電池、家庭用エネルギー管理システム(HEMS)、電気自動車等充電設備の4つの設備を新たに加えた。

- 58ページ「学校における環境教育を推進する」と書いてあるが、学校にどのように働きかけているのか。
 - 市では「出前講座」を実施しており、学校に職員が行き、授業というような形で、生徒に対する説明を行っている。それに加え「学校版エコチャレンジ(仮)」という、子供自身が環境負荷への低減に関する目標を立て、実際取り組み、出来たかどうか確認し、次の行動に結びつけるという事を教育部局と連携しながら、徐々に働きかけができればと考えている。

- 56ページの「豊かな景観や文化を育む」の中で景観について触れているが、今年の4月には都市計画課で「成田市景観計画」が策定されており、その計画とこの環境基本計画とは連携するのか。それとも別々の方向となるのか。
 - 連携していく。計画見直しの中で、「里山」という言葉を、景観計画を踏まえて「里地」という言葉に変更した。

- 清掃工場から先、里山ゾーンとか計画があるが、進捗状況は。
 - 成田富里いずみ清掃工場の計画の中で、余熱で発電している。また隣接に余熱を使った温浴施設を計画している。概略・スケジュールとして、約9.1haの敷地となり、現在は用地買収を進めている。また清掃工場から付帯施設を通り過ぎてその先まで、市道を併せて整備しているが、それが付帯施設のところまで出来上がるのが、平成26年くらい。付帯施設はその後3か年位かけて整備し、平成30年の春頃、完成予定。施設の中身は、25m5コースの競泳プールと子供用のプール。温泉も掘り、風呂も露天風呂を併設する。施設の中では、トレーニングなどの部屋、休憩ができる量の部屋などを用意する。施設の周辺は、多目的広場や周辺の森林を生かした遊歩道なども整備する。

- 有効利用するのは良いが、あまり自然を壊さないようにしながら開発を進めるように。
→ 森林率半分くらいで林地開発を行っているので、緑が残るように計画している。

- 34ページで「今後は、今まで環境活動に積極的に取り組んでこなかった人々の参加性を高める」とあるが、この「取り組んでこなかった人々」は、どのような人を想定しているのか。
→ 「積極的に取り組んでこなかった人々」がどのような人かという事については、想定はしていない。どの人も環境保全の取組には、多少なりとも関わっていると思っている。今回、より積極的に参画してほしいという事で、このように載せたが、具体的な人を想定している訳ではない。
- 想定していないという答えでは困る。私なりに考えると、町内会や地域の自治活動でも、アパート・マンションの住人は、ほとんど参加していない。そのような人を「取り組んでこなかった人々」と想定したと思ったが。
→ そのような人々も含まれるが、それだけという訳ではない。環境は幅広く、今回は基本計画であるので、下位の個別の計画や、それぞれの部署での具体的な取り組みで実施していく。

- 50ページで、マイバックの持参を明記している。弊社もごみゼロに取り組んでおり、去年11月からレジ袋の有料化を実施し、今までで約2割位の削減にはなった。ただ、有料化によりクレームも受けることもあるため、企業だけではなく、行政も巻き込んだ形でやれば、もっと買い物袋の持参率というのが上がり、レジ袋の使用が少なくなると思う。
→ 市内の事業者と連携を取れば一番良いと思う。直接伺うなど、情報交換を進められれば。担当課長にはその旨、伝える。

- 生物多様性について、環境省で法令化、千葉県も条例に基づいて動いている。その条例に則って独自に条例を作っているのが千葉市と柏市。生物多様性の条例を作る場合に一番大切になるのは、その基本となる調査をしっかりとやって、地域の生物多様性の在り様を把握して貰いたい。その上で、条例的なものが出来るならば、それを使っていたきたい。
34ページの「環境活動に取り組んでこなかった人々」という表現だが、例えば「今後は今まで以上に環境活動に積極的に取り組む人々の意識高揚を図る」などという表現にしたらどうか。文言に関しては会長と事務局に一任させてもらうという事でどうか。

(4) その他について

さらに、「その他」として質問を受けた。

出された質問は次のとおり。(○質問等、 →質問に対する回答)

- パブリックコメントだが、意見がゼロというのはどうか。
 - 公表の仕方は他のパブリックコメントと同じ。資料を見に来た方はいるようだが、意見としては出されなかった。パブコメは平成17年から平成25年で、全部で40件実施したが、その内の意見が無かったものが10件あり、4件に1件くらいは意見が出ていない。出たから良い、出ないから良い、という訳ではなく難しいところではある。
- 環境に限らず思うが、ごみの分別が悪かったなど、市民の意識がすごく低い。市の責任だけではないが、イベントや環境に関する活動は、それだけで終わってしまうものよりも、もっと根本からやり、形になっていくものがほしい。市から投げかけられて、市民がやっているだけでは、環境意識が高まらないと思う。
 - 機会を増やすという事も一つだと思し、意見をいただきながら、取り組んでいければと思っている。
- 地産地消にあまり熱が入っていないように感じた。これを機会に、比較的知名度のある野菜、果物などを道の駅を利用し、発展させては。
 - 前回、地産地消の質問に関し、エネルギーについて答えさせてもらった。地産地消という意味では、千葉県では「千」とかいて「千産千消」を推進している。成田市は合併後、さらに農業の割合が高まっており、農政課を中心に地元のを普及させようと動いている。また教育部門、給食センターなどと連携をとり「食育」も進めている。環境の観点からも何かできれば良いと思う。
直売所は、北須賀と下総の宝船公園にできた。今後はさくらの山にもできる予定。

6 傍聴

1名。

7 次回開催日時(予定)

2月中旬となるが、日程は、現時点では未定のため、改めて連絡する。